INTERVIEW

前母島診療所 管理者
山下 匠先生

島での4年間の経験をこれからも活かしていきたい

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

東京都の卒業生として

山田隆司(聞き手)　母島診療所の山下先生のお話を伺います．この診療所はおそらく義務年限内で赴任する場所で東京から最も時間のかかるところではないかと思いますが，先生が義務の中で得た経験を今後どのようにつなげていこうと考えていらっしゃるか，お話を伺えたらと思います．

私も15年くらい前にここに代診に来たことが２度ほどありますが，私にとっては後輩の支援に行った中でも特に思い出深く，環境の素晴らしい夢のような島という印象があります．

それでは，先生の自己紹介をかねて，ここに至るまでのお話を伺えますか．

山下 匠　私は東京都の34期で，卒業が2011年３月です．米国に卒業旅行に行っていて，向こうで東日本大震災の状況を耳にしたというタイミングでした．

２年間の初期研修は東京都立広尾病院でしました．広尾病院は東京都の島嶼地区の緊急搬送の第一次選択病院ということもあり，ヘリコプターや小笠原では飛行艇で，緊急搬送の添乗の機会が他の病院の初期研修医よりも多く，また島から受診する患者さんとお会いする機会もあったので，そういった交流も，今，ここで働いていることにつなげられたかなと思っています．東京都は３年目も研修なので，そのまま広尾病院で内視鏡を１ヵ月と透析を２ヵ月，その後９ヵ月間は都立墨東病院の小児科でお世話になりました．４年目からへき地の派遣で，４年目が新島村の国保式根島診療所で１年間働きました．式根島は島民500人強の島です．翌年は島民300人前後の利島村の国保診療所へ行きました．その後１年は墨東病院の小児科･新生児科で後期研修をした後，2017年度から今の母島診療所に来て，間もなく丸２年になります．

小笠原村の医療

山田　ここは島民400人くらいですか？

山下　現在460人くらいです．人口は増えているのですが，土地がない関係で500人を超えるのが難しく，大体450～500人の間で行き来しているようです．

山田　自治医大の卒業生が派遣されるへき地・離島は人口がどんどん減っているところが多く，そういう中では珍しいですよね．

山下　そうですね．小笠原は出生も増える方向で，母島も増えてはいませんが維持しているという意味では特殊なのだと思います．移住してくる方がほかの離島に比べて多いですね．最近は好んで移住してパートナーを見つけて，お子さんが生まれて，永住してというパターンが，30～40歳より若い世代の方々でより顕著な印象があります．

山田　先生は小児科の研修をされて，ここでも小児を診る機会はあったのですか．

山下　はい．式根島は高齢化率44％くらいですが，母島は高齢化率が20％を切るので，小児科医としてのスキルでお子さんに対応することができました．診療だけでなく，乳幼児健診もそうですし，小児科から離れますが妊婦健診の機会も多かったのでよい機会ではあったかなと思います．

山田　父島は近くにあるものの，絶海の孤島のようなこの島に赴任されて，先生が卒業後，まだ８年目，９年目という段階で厳しいと感じたのはどういうところですか．

山下　今先生がおっしゃられた通り，「絶海の」というところがキーワードになってくると思います．新島と式根島も２島１村で，父島と母島も２島１村です．でも式根島と新島の距離は４kmで１日３便の船の往復があります．ここは父島と50km離れていて，１日１便というか，結果的に0.5便という感じなので，いわゆる日常診療ではコメディカルの方との連携が難しかったり，保健・福祉の面では例えば保健師さんに訪問をお願いしたい高齢の方や精神疾患の方がいても，なかなかお願いしにくいのが現状です．村としても考慮はしてくれていて，本来母島に保健師さん一人は常駐配置なのですが，今は欠員で，自分自身が訪問に行かざるを得ない状況です．保健師さんがまた配置になれば連携を取りながらできることもあるとは思っているのですが．

山田　福祉関係の介護サービス事業者はあるのですか．

山下　民間業者がデイサービスをやっていてショートステイも一応受け入れることにはなっているのですが，人員の関係でなかなか受け入れが難しい状況ですね．

山田　リソースが少ない中で「自分はこれが専門です」と言っていても始まらないので，医師も訪問をしたりリハビリの指導をしたり，場合によっては栄養指導をする場面が当然ありますよね．

山下　そうですね．自分も例えば栄養学や理学療法をしっかり勉強したわけではないのですが，聞きかじりやインターネットで調べたりしながら，２年間しのいできたという部分はあります．

山田　インターネットやいろいろなリソースを頼りにして，地域に役立つことを勉強しようという態度が，こういうところでは養われるように思います．

山下　そうですね．自分自身のスキルアップという意味で，医者としての仕事だけではなくて，看護職の仕事，例えばエンゼルケアを手伝ったり，あるいは調剤もしますし，リハビリや栄養指導もそれぞれの職種の方のアドバイスを聞いて実践してみたり，お互いの連携をより実感しながらできたというところは，今後，大きな病院で働くことになったとしても活かせるかなと思っていると，研修に来てくれた後輩の先生には話